

独立行政法人地域医療機能推進機構

第7回 二本松病院地域協議会

議 事 録

日時：平成29年7月6日（木）19時15分～20時45分

場所：病院会議室

出席者 加藤 清司（福島県県北保健福祉事務所所長）
土川 研也（安達医師会会長・二本松病院地域協議会委員長）
斎藤 浩樹（医療法人静心会 斎藤医院院長・二本松病院地域協議会副委員長）
佐藤 俊明（二本松市市民部部長）
佐藤 正弘（二本松市福祉部部長）
斎藤 孝一（安達地方広域行政組合消防本部警防課長）
藤田 俊徳（二本松薬剤師会監事）
安齋 英雄（二本松市社会福祉協議会会長）
矢吹 孝三（二本松市民生児童委員協議会会長）
武田喜代治（二本松市岳下区長会 会長）

病院 六角院長・柳沼副院長・大類事務長・安田総看護師長・安齋薬剤科長・
渡邊副総看護師長・村田事務長補佐（総務／経理）・米川事務長補佐（医事）
安部総務係長・後藤経営企画係長（書記）

議事内容（大類事務長進行）

・協議会次第にそって

1. 開会

2. 院長挨拶

本日は、お忙しいところ二本松病院地域協議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。
ございます。

平成26年4月に地域医療機能推進機構二本松病院（JCHO 二本松病院）としてスタートしてから早いもので4年目に入りました。

JCHOとなって3年間、無事に運営することができましたのも、地域の皆様及び関係各位のご支援・ご協力の賜物と感謝しお礼申し上げます。

団塊の世代が75歳以上となる2025年に向けての「地域医療構想」が策定され、平成30年4月には「第7次医療計画」がスタートいたします。

また、診療報酬・介護報酬の同時改定も控えており、今年度は関係機関とこれまで以上に情報を共有し、関係を密にして、病院を運営していく必要がありますので、さらなるご理解とご協力をお願いいたします。

4月からの当院の体制は、昨年度まで看護課のトップとして社会保険病院時代から4年間病院運営に尽力していただいた佐藤妙子総看護師長が、3月末で定年退職となり、秋田病院から異動になった安田純子総看護師長と、仙台南病院から戻った渡邊百合子副総看護師長の新体制で運営していくこととなりました。

また、二本松市から委託を受けた「二本松第1地域包括支援センター」も4月から新しくスタートし活動を始めております。

地域住民の皆様の期待に沿った医療・介護の提供に今後とも職員一同努力して参ります。

本日は、当院の運営につきまして、様々なご意見をいただきたいと思っております。どうぞよろしくをお願いいたします。

3、委員の紹介

4. 議事（土川安達医師会会長進行）

大類事務長より二本松病院地域協議会資料に添って説明

平成28年度

- ・入院、外来患者数状況について
- ・救急車受け入れ状況・産後ケア実施件数について
- ・健康管理センター受診者実績について
- ・訪問看護／訪問リハビリテーションの状況について
- ・地域連携室件数について
- ・老健・月別入通所者状況について
- ・収支状況

平成29年度

- ・入院、外来患者数状況について

- ・救急車受け入れ状況・産後ケア実施件数について
- ・健康管理センター受診者実績について
- ・訪問看護／訪問リハビリテーションの状況について
- ・地域連携室件数について
- ・老健・月別入通所者状況について
- ・地域包括支援センター及び居宅介護支援センターの状況について
- ・収支状況

～質疑応答～

：土川安達医師会会長

全体的に入院、外来患者数が減少ぎみにあり、介護系が増加しているということで何か今の説明に対して、ご質問ご意見などありましたらお願いします。

：加藤県北保健福祉事務所所長

私は前任先が会津でしたので、同じような現象が起きているのかなと思いますが人口減少が患者数の減に繋がっているのではと思いますがどうでしょうか。

：大類事務長

二本松市の人口は減ってはいますが、年齢層が高い方の人口は減ってはいません。ただ二本松市に住所を有していなく避難されていた方が少しずつ二本松市から離れてきている傾向があります。

：佐藤市民部部長

人口減少は仮設住宅から、浜通り、福島、郡山市内などへ住まいを変えられた方の影響も多少はあるかと思います。

：大類事務長

人口減少も多少ありますが、当院では、今年1月常勤泌尿器科医師1名が退職となり5月には外科医師1名退職となりました。その影響が大きいと思います。

：六角院長

やはり泌尿器科医師が常勤から非常勤となり、週3回応援に来てはいますが、その影響は大きく、外来・入院患者数及び手術件数も減りました。

：土川会長

医師不足で入院が減少しましたが、他の医療機関に入院をお願いすることはありますか。

: 六角院長

当院の診療科以外で入院を希望となれば他の医療機関をお願いする場合がありますが、医師が少なく大変という理由で、他をお願いすることはありません。

: 土川会長

具体的にこのようなことをお聞きして申し訳ないですが、地域包括支援センターの委託費ですが、この金額がまかなえなくなることは想定されていますか

: 大類事務長

地域包括支援センターは内部異動により4名の職員を配置しております。

この事業は将来を見越してのことなので大きな収益が出るものでもないのかと思います。

: 佐藤市民部部長

産後ケアについてですが、人数増を考えていますが、病院さんの余力もあるかと思いますが月13人くらいが限度でしょうか

: 安田総看護師長

その件に関しましては二本松市の担当の方と検討していきまして現在月平均が6~7名で行っています。まだまだ産後ケアというものがどうゆうものなのか周囲の人たちに周知されていないのが現状です。母子手帳をお渡しするときに産後ケアのパンフレットもお渡し頂いていますが、具体的な内容を私たちも伝えきれていないところもあると思います。

現在月曜日から金曜日まで実施していますし、助産師も院内にいますので、病院ではまだまだ余力があります。これからも広報活動を続け二本松市は子育てしやすい地域であることを広げながら市の方と進めていきたいと思っています。

: 佐藤市民部部長

決定ではありませんが、スマートフォンのアプリ等を検討しています。産後ケアの内容及び空き日など見る事が出来るようになればと考えています。

: 佐藤福祉部部長

4月1日から始まりました地域包括支援センターの件ですが二本松病院さんには昨年度

から準備を進めて頂いていましたがすばらしい対応をして頂きましてありがとうございます。こちらの地区は二本松第一中学校学区で市内でも一番人数も多く年齢層が高いエリアにも関わらず、すでに4月より色々な形で高齢者の自宅へ出向き充実した対応をしていただき御礼申し上げます。この事業は市の実情もありまして今後大きな収益に繋がるものではありませんが、JCHOさん全体で地域包括支援センターを考えて頂いていることは、市としても大変心強く思っています。これからはまだ始まったばかりですので色々有るかとは思いますが、市としては今後もバックアップ体制を取りながら充実した事業に構築していきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い致します。

：矢吹民生委員会長

先ほど佐藤福祉部長よりお話がありましたが、包括支援センターの会議にご出席頂きありがとうございます。できる限り老人介護等の問題もありましてアンテナを高く情報収集をして頂き、やはり頼りになるのは地域包括さんです。これからも大変な分野ですが、民生委員もその時の状況に応じて対応していきます。連携が基本です。今後ともよろしくお願い致します。

：土川会長

これからこの分野は大変な事業になるかと思えます。人数も多いですし 多くなった分まかないきれぬのか、その時その時で柔軟に対応していく、ソフトランディングと言っていますが、未知の分野でもありますし計画通りに行くとも限らないですね。

：土川会長

目標地に向かっていく中で、お一人お一人のご負担が増し安達医師会全体も年齢的に若い方から遠ざかっていますので、先生方にはご自身の健康を考えながら今後も頑張ってもらいたいなあと思えます。

：大類事務長

続きまして別紙お配りしました資料についてご説明させていただきます。

- ・二本松病院概況書～平成 29 年 7 月 1 日現在
- ・二本松病院地域連携室だより（第 7 号 2017.5）
- ・花かすみ（附属老人保健施設だより・29 年春号）
- ・あゆみ（病院広報誌・29 年 6 月号）
- ・JCHOニュース（2017 年春号）

：土川会長

議事についてはこれで終わります。

5、意見交換

：大類事務長

ご意見を頂戴したいと思います。

：安達地方広域行政組合消防本部斎藤警防課長

救急車受け入れについてご報告させていただきます。

平成 29 年 1 月から 6 月までの搬送人数が 1,854 人、内二本松病院で収容して頂いた人数が 304 人、全体の 16.4%となっております。昨年に比べまして 52 名の増となっております。近年病院選定に苦慮している中、積極的な受け入れをして頂きありがとうございます。今後ともよろしく願いいたします。

また病院さんには救急救命士の研修を平成 27 年度から受け入れて頂いておりますが、今年度も 4 名受け入れを頂きお世話になります。研修を受けた職員からは、救急処置はもちろんの事、病院スタッフさんと顔が見える関係を築くことが出来て大変有意義な研修だったと報告を受けております。こちらもどうぞよろしく願いいたします。

：安齋社会福祉協議会会長

東和サテライトの利用状況を教えてください。

：安田総看護師長

東和地区の利用者は毎日あります。人数に上下はありますが東和にサテライトがあり、動いている状況です。

：大類事務長

東和サテライトは利用者の方がサテライトに来るのではなく、こちらの職員がサテライトに出向きそこから東和地区の利用者宅に訪問します。またお昼などは、一旦病院には戻らずサテライトで休憩するなど移動距離また時間の短縮にも繋がっています。

：齋藤医院院長

常勤医師が足りないとお話でしたが何か動きはありますか。

：六角院長

私は外科なのですが、医大外科にお願いしますが昔は第 1 外科、第 2 外科と分かれていましたが再編成になり消化管外科、甲状腺外科など細分化され、内科も第 3 内科が腎

臓病内科、糖尿病内科等に分かれるなど医大の人数は多くなっていますがそれぞれの分野で人が必要になり当院の常勤医師の確保が難しくなっています。

その中で医師確保の為、何度もあいさつに伺ってはいますが、大変厳しい状況です。

6、閉会のあいさつ

柳沼副院長

皆様本日はお忙しいところありがとうございました。

最後に医師不足というお話ですが看護師、薬剤師、管理栄養士など有資格者がなかなか集まらないという状況です。

我々は今本当に厳しいのは間違いないのですが、何とかこの先5年後、10年後、15年後には今の状況からだ脱却できるのではないかと期待しています。

今後も皆様のご支援を頂きながら頑張っていきたいと思えます。

どうぞよろしく願いいたします。